

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

病院等の名称	医療法人 神徳会 三田尻病院
見直しを行った機能	急性期機能
H30許可病床数からの削減数	16床
変更予定年月日	令和3年2月1日

1 地域の状況		
地域の現状と課題	<p>山口・防府医療圏において人口の大幅な減少は予測されておらず高度急性期機能においてはその維持が求められる。上記の通り防府地域の高度急性期医療は山口県立総合医療センターに依るところ大であり、その維持を欠かすことはできない。</p> <p>また防府地域において急性期医療を担う医療機関は前述の山口県立総合医療センターを含め7病院、551床。必要病床数から割り出せばそのうち164床が不要と判断される。</p> <p>一方、回復期機能を担う病床については355床が不足していると推計され、高度急性期・急性期病床からの移行が行われる可能性がある。</p>	
2 自施設の状況		
自施設の現状(変更前)	<p>山口・防府医療圏の休床を除く許可病床は3,833床。2025年に必要とされる病床は3,008床。当院が届出ている「高度急性期・急性期・回復期」の区分においては必要病床数との差が約13.7%ある。山口・防府医療圏、とりわけ防府地域の医療提供に際しては高度急性期機能を担う山口県立総合医療センターの存在は欠くべからざるものであり、その高度急性期機能の維持を最優先に考えるべきである。急性期、回復期両機能を担う当院としては急性期機能、回復期機能共にその充実を計る必要がある。</p>	
病床数の見直し	見直しの考え方	<p>急性期、回復期両機能を担う当院としては急性期機能、回復期機能共にその充実を計る必要がある。その際、課題となる事項は以下の3点。</p> <p>①急性期・回復期における多様な診療ニーズに対応する一部医師への業務偏重の是正。 ②災害拠点病院として必要な機能の補完、維持に対応する一部医師への業務偏重是正。 ③上記2点で必要とされる機能を果たすため現在以上の人数が必要となる看護師の確保。</p> <p>さらに、人員の不足を補いながら地域医療の現状に鑑み、更なる回復期機能の充実と急性期機能の強化を計るため当院は急性期病床16床の削減を行う。また今後、回復期機能の拡充に関しても検討を進める。</p>
	対象の病棟・病床の概要	中央5階病棟 急性期一般入院基本料6 45床
	入院患者への対応	包括ケア病棟、一般急性期病棟への転棟を促し対応を行う。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	<p>地域医療構想の中にある山口・防府医療圏の休床を除く許可病床は3,833床と2025年に必要とされる病床数3,008床であり。今回の届け出は「高度急性期・急性期・回復期」の区分における必要病床数との差、約13.7%の差異減少に寄与するものであり、また今後人材が減少する中、新たな病院運営の形を構築して行きたいと考えている。</p>	

【参考：H30病床機能報告(山口・防府保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	介護保険施設移行予定	合計
報告	①H30(2018)現状	544	1,379	574	1,276	108	-	3,881
	②R7(2025)予定	508	1,265	730	1,064	154	160	3,881
構想	③R7(2025)必要数	275	974	899	860	-	-	3,008

④構想との差(H30)(①-③)	269	405	△ 325	416	-	-	765
⑤構想との差(R7)(②-③)	233	291	△ 169	204	-	-	559